

児童発達支援自己評価（職員による評価）表集計結果

社会福祉法人富士見会
児童発達支援センター富士見台聴こえとことばの教室
令和6年3月29日公表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	10名 (67%)	5名 (33%)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練室を有効活用できるよう時間帯を設定している。個別訓練が多いため、突然の休みの場合、部屋が空いてしまう。 ・在籍児は多いが訓練室を効率よく使えるよう時間割作成時からしっかり検討調整している。 ・活動内容を工夫する。 ・曜日によって、子ども達の訓練予定に差があり、部屋が確保できないことがある。
	2	職員の配置数は適切であるか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりより個々の子どもに合わせた療育プログラムになってきており、職員の負担も大きくはなっているが、学年ごとなど複数人のチームで協力しながら療育をしている。 ・ギリギリの人数でやりくりしており、急な職員の欠席への対応が難しい時もある。 ・担当の学年の人数が多いが、主担任が全員を見るのではなく、分担している。 <p>学年ごとに人数も違うし、希望する曜日や時間帯も違いがあるので、助け合えるといいのだが、そうもいかないところもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなかむずかしいが、グループ訓練を主として担当する職員を増やして欲しい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・防音や反響軽減のため訓練室や廊下はカーペット敷きになっており、季節に合わせた壁面装飾や歌の紹介など視覚的な手がかりを多くしている。また施設の一斉メールによる連絡などを取り入れている。 ・常に改善できる点がないか考え、物の配置などは替えている。 ・情報伝達の方法については一部検討しているところである。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12名 (86%)	2名 (14%)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の訓練前、夕方の訓練終わりなど清掃をしている。 ・こまめに掃除機をかけるなど心がけているが不十分。 ・消毒や掃除は毎日行われている。 ・掃除機をこまめにかけている。机とドアの消毒をしている。 ・収納場所が少ないので、整理整頓が大切。地下の収納の出し入れが誰でも出来る形になったのは良かった。

業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常訓練はチームで振り返り、次回の訓練につなげている。室外指導などの行事は改善点を記録している。 ・職員会議や全体またはチーム内ケース検討など頻繁に行い、また日々訓練でのことや保護者からの情報などをほぼその日のうちに情報共有して療育を行なっている。 ・自己評価のシートにより行われている。 ・目標シートに、記入して提出している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・対応改善が必要なこと、可能なことについてはできるだけ早急に対応できるよう心掛けている。 ・保護者からの声は、ときどき今までの施設運営では考えられなかったようなものも出てくる。それが時代の流れて、こちらの認識が遅れているのか、受け入れるには時間がかかるものもあると感じる。しかし、何かしら検討し直接改善するか、より説明を重ねるか工夫は必要と感じる。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleフォームを採用している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練数の確保をしつつ交代で外部の研修にも参加している。全員が参加できる日程での研修が行われている。 ・外部の研修の機会がコロナ後に再開し、多くの職員が参加しているが、療育の継続や施設運営との兼ね合いで難しい面もある。 ・訓練を変更できればいいのだが、なかなか変更できず、外部の研修などは難しい。ただ会議で共有することで、新しい知見を得ることはできている。 ・研修に参加した職員から報告をしてもらい、できるだけ皆で内容を共有している。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育内での保護者とのやりとりや相談、面談、保護者の提出する生活の記録など、ニーズを把握する機会は多く、担当するチームで共有して相談や検討もできている。 ・個別支援計画作成前に保護者と面談を行い、保護者のニーズを伺った上で作成している。 ・一人で考えずに、複数の職員や児発管に相談しながら作成している。 ・なかなか保護者の方と、丁寧に時間を取って話すことができていない。
11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9名 (64%)	5名 (36%)	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントツールがあるわけではない。 ・保護者と相談して適宜使用している。 	

12	<p>児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか</p>	<p>13名 (100%)</p>	<p>0名 (0%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援については在籍児は東京都全体と広域に渡るため、指導員が訪問するのが難しいが、難聴や難聴児早期療育について理解を深めてもらうため、在籍児の関係する保育園、幼稚園、児童発達支援事業所、保健所、学校関係、医療関係などを対象にした公開研修会を年に2回ほど開催して案内している。その中で担任と園の担任の情報交換などもできている。
13	<p>児童発達支援計画に沿った支援が行われているか</p>	<p>15名 (100%)</p>	<p>0名 (0%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度支援計画に合わせた訓練を立案している。

14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームと言うより個人または主たる2人程度で決めていることが多いと感じる。仕方がないが末端の関係者は後から知らされることになってしまう。 ・適宜チームで話し合う。 ・立案は個人で行っているが、日頃から話し合い、相談の上考えて活動予定を事前に共有するようにしている。状況によっては相談の上変更する事もある。 ・もう少し、それぞれが悩んでいるケースについての検討などの時間をチームとして取っていきたい。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・柱になる療育プログラムはあるが、そこから個々の子どもやその学年に合わせていくので内容は非常に幅広く、新しく取り入れる活動も多い。 ・子どもの発達や家庭、社会状況も踏まえて取捨選択しなければならない事も多く、保護者との話し合い、信頼関係の確立が大切であり難しくもある。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせせて児童発達支援計画を作成しているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や少人数での活動、学年でのグループ活動が基本のプログラムであり、それが個別支援計画になっている。 ・個別支援計画と集団活動での支援計画の相互関係の見直しが必要な時期と感じる。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、毎夕だけでなく、昼や空きコマなど常に計画や内容検討、情報交換がされている。 ・なるべく行っているが十分で無いことも。 ・必ずではないが、なるべく情報交換や、お互いに普段から声を掛け合いながら状況を把握するなどの工夫を心がけている。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずはできていない。 ・必ずではないが、なるべく情報交換や、お互いに普段から声を掛け合いながら状況を把握するなどの工夫を心がけている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練記録だけでなく報告、相談、検討が行われている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しを行い、学年で2回作成している。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8名 (57%)	6名 (43%)	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があれば参加できると思う。 ・現状では、サービス担当者会議に参加していない。 ・各相談支援事業所から、モニタリングの依頼がある際は丁寧に対応できるよう心がけている。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	13名 (87%)	2名 (13%)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要がある場合には速やかに連携をとっている。 ・連携が増えてはいる。 ・研修会等を行なっている。

23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	3名 (43%)	4名 (57%)	・担当クラスには該当するお子さんがいない。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	4名 (57%)	3名 (43%)	
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研修会を年2回開催し、難聴や難聴児早期療育について理解を深めてもらうとともに、先方の担任や担当者と当方の担任との面談行い、情報共有を行っている。 ・連携がとれているところもあるがそうでないところもある。 ・研修会での面談や電話での個別相談、情報共有を行なっている。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会担当者から療育見学の希望があればかならず受けており、就学のための児の様子や療育経過といった書類提出などを行っている。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研修会を開催して案内を出し、参加があればそこで連携を取ることができる。また施設に担任が見学に行くこともある。 ・機会が少ない。 ・常にではないが、見学にいかせていただいたり、お電話させていただいたりしている。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍児の多くが地域の幼稚園や保育園に通い、当方の療育でも法人内の認可保育園で4歳5歳組グループ訓練時の交流活動がある。 ・同法人の保育園児と交流を行なっている。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	4名 (29%)	10名 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の難聴児幼児通園施設協議会へ積極的に参加している。地域の協議会へは今後参加の予定がある。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育は保護者と同室で一緒に行っているため、その中での保護者とのやりとりの中で相談や共通理解などができている。 ・訓練の終わりに話すよう心がけている。

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	10名 (67%)	5名 (33%)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に保護者は同室で一緒に療育に参加しており、家庭の記録や絵日記活動など家庭での療育についてもアドバイスや指導ができる。 ・家庭での記録を提出してもらい、気になる点をフィードバックしている。記録提出のない保護者の場合、フィードバックが足りなくなってしまうことがある。グループ訓練では時間が短くなると保護者との話し合いの時間、回数が少なくなってしまう。 ・行事などへの参加や、保護者研修会などの機会に行っている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・入室時ガイダンスで説明してしており、また随時質問等があれば対応している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をあけず対応できるよう心がけている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとにクラスだよりを発行し、クラスの予定や上級学年への見通し、活動状況を知らせている。 ・年一回在籍世帯、修了世帯、外部関係機関へ配布する富士見台だよりの他、学期ごとのクラスだより、学期始め終わりの始業日終業日に配布するプリント、行事などに関するお知らせ、変更や緊急時の一斉メールなど発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに全世帯にアンケートを行い、家庭ごとの希望や許可をとった上で、必要に応じて重ねて確認するようにしている。 ・個人情報を持ち帰らない。

	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は地域の人でも参加できるバザーを行っていたが、コロナ後はまだ限定した対象ではあるが、お祭りなどを開いている。 ・地域の子育て事業所に案内を出している行事もある。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	15名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日、時間によって通所している親子が違うため、年間で曜日を変えて避難訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	14名 (100%)	0名 (0%)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	14名 (93%)	1名 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在給食を食べている子どもはすくないが、おやつ活動などは多いので、年度はじめにアレルギー調査を行い、同法人の診療所医師、看護師に管理してもらい、必要に応じて対応している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	15名 (100%)	0名 (0%)	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	14名 (100%)	0名 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を行なっている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	3名 (30%)	7名 (70%)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束をする状況にはなった事がない。 ・身体拘束が必要なお子さんがいない。